

令和３年度第３回東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）

次 第

日時：令和３年７月２７日（火）

午前１０時～

場所：東温市総合保健福祉センター

３階 大会議室

１．開会

２．あいさつ

３．協議・報告事項

- （１）東温市地域公共交通計画の策定に係るパブリックコメントの結果及び計画の決定について

・・・・・・・・【東温市地域公共交通計画(案)】【資料１】

- （２）その他報告事項について・・・・・・・・【資料２】

４．閉会

<事前送付資料>

【東温市地域公共交通計画（案）】

【資料１】東温市地域公共交通計画 パブリックコメント対応表（案）

【資料２】伊予鉄道横河原線のレール・マクラギの改修について

令和３年度第３回東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）

出席委員名簿

	団体	役職	委 員	備考
1	東温市	副市長	大石 秀輝	
2	株式会社伊予鉄グループ	取締役	竹中 由紀夫	代理：岡田 好功
3	東温市タクシー連絡協議会	会長	和田 宏一	
4	愛媛県バス協会	専務理事	稲荷 和重	
5	愛媛県ハイヤー・タクシー協会	専務理事	谷口 政賀津	
6	国土交通省松山河川国道事務所	計画課長	宗光 太助	
7	愛媛県中予地方局	建設企画課長	曾我部 知正	
8	東温市産業建設部	部長	上岡 浩二	
9	東温市区長会	会長	三棟 義博	欠席
10	東温市老人クラブ連合会	会長	東 正史	
11	東温市婦人会	会長	高須賀 恵美子	
12	東温市PTA連合会	顧問	松本 司	欠席
13	東温市社会福祉協議会	会長	菅野 邦彦	
14	市民の代表（公募）		森 善政	
15	市民の代表（公募）		横手 裕子	
16	松山南警察署	交通課長	高崎 広記	
17	伊予鉄道労働組合	書記次長	藤本 孝	
18	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 （総務・企画担当）	西山 保幸	
19	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 （輸送・監査担当）	菊池 勝二	
20	愛媛県	中予地方局 地域政策課長	星加 修一	

【アドバイザー】香川高等専門学校	教授	宮崎 耕輔	
------------------	----	-------	--

令和 3 年度第 3 回東温市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時： 令和 3 年 7 月 27 日 10:00~12:00

会 場： 東温市総合保健福祉センター

1. 開会

進 行： これより令和 3 年度第 3 回東温市地域公共交通活性化協議会を開会する。

2. あいさつ

会 長： <挨拶>

3. 協議・報告事項

(1) 東温市地域公共交通の策定に係るパブリックコメントの結果及び計画の決定について

事 務 局： <説明【東温市地域公共交通計画（案）】【資料 1】>

会 長： ただいまの説明について、何か質問等はあるか。
忌憚のないご意見を伺いたい。

宮 崎： No7 と No10 の意見、基本方針「みんなで・・・」の表現について、一番大事な部分だと思うが、皆が勝手に解釈しやすく危ないように思う。また、No2 の回答は、かえってフラストレーションを高めるようになっているように思う。

基本方針 1 は「みんなで・・・」となっているが、私の解釈では「みんなが主体的に・・・」である。それに対する回答として、補足をした方が良いのではないか。No7 も、そうした組織が無いので立ち上げてほしいという風にした方が良いのではないか。

No10 は何となくどのような公共交通を目指しているかが分かりにくくなっているのではないか（網形成計画では樹木の枝葉のイメージであった）。何か絵（イメージ）があればよりわかりやすくなると思う。この協議会でイメージしていることが、外に出たときに伝わっていないのではないかと感じた。少し言葉足らずになっている印象があり、補足説明が必要ではないかと感じた。計画を策定し住民に説明する際、絵で示せた方が説明しやすいように思う。

事 務 局： 回答に補足の文章を加えるとともに、網形成計画の絵を編集してイメージ図を追加する。

また、基本方針 1 を「みんな“が”“主体的に”公共交通を支える・・・」と修正する。

会 長： 他に意見は無いか。

横 手： 「ご協力をいただくこともございます。」ではなく「いただきたい」や「必須です」といったようにした方が良いと思う。市民一人ひとりが自分のこととして関わっていかなくてはならない。

会 長： まだ変更は可能なのか。

事 務 局： 可能である。事務局で修正案を作成し、郵送等でご確認いただくようにする。

宮 崎： 事務局一任でも構わないと思うが。

会 長： それでは、計画案の修正版はまた送付して確認いただき、パブリックコメント対応案は事務局に一任いただくということで良いか。

各 委 員： 《承認》

宗 光： No8 や No9 で定期的にとまっているが、目標の達成状況評価は毎年行うということで良いか。

事 務 局： 年度ごとにも中間的な評価を実施したい。

会 長： パブリックコメントの結果と計画の決定についてだが、基本方針1の文言修正、パブリックコメントへの対応の No2,7,10 の修正を行うこととする。この修正をもって東温市地域公共交通計画案を承認するというように。

各 委 員： 《承認》

会 長： それでは承認ということとさせていただきたい。最終のレイアウト調整等については事務局に一任させていただきたい。

(2) その他報告事項について

事 務 局： <説明【資料2】>

(3) その他

宮 崎： 今後計画の説明を行うにあたり、「何をする」の部分が中心になると思うが、「東温市の課題が何で、それについてこういう計画を立てている」という部分を中心に説明することになると思う。ただ、地域によって課題は少し違っており、「事業者がやってくれる」ではなく、皆さんの出来る人がやっていくというスタンスが重要である。

できればここで各委員の皆様より一言ずつ、ここ最近で感じておられること等あればお願いしたい。

星 加： 公共交通は生活の足で経済活動を支える上でも重要なインフラであるため、県では運行経費や車両導入費等への助成に取り組んでいる。近年はコロナ禍で、事業者は本当に大変な状況下で運行を継続いただいております。

では感染防止対策や利用回復施策への補助を創設するなど、事業者を支援している。また、公共交通はいったん廃止されると復活は非常に困難となるため、国に対しても支援を強く要望している。今後とも、事業者や利用者の声を丁寧にくみ取りながら、市と協力して維持に努めたい。公共交通を利用することが何よりも支援となるので、市民の皆様には積極的な利用をお願いしたい。

菊 池： 地域の方の声をくみ取り、主体的に関わっていただければ良いと思う。バリアフリーの国補助等もあるので、有効活用いただきたい。

西 山： パブリックコメントが 10 件出たが、他の市町ではなかなか出てこない。それだけ市民の意識が高いのではないかと思う。皆が主体的に取り組んでいければ良いと思う。

藤 本： コロナ禍で公共交通は危機に陥っており、高速バスと貸切バスはほとんど仕事がなくなっている。テレワークの普及により日常的な利用も減ってきている。

高 崎： 高齢の方に免許返納をお願いしているが、免許を返納すると生活（買物や通院等）に困ると言われる。交通事故を減らす意味でも、地域の公共交通がますます活性化すれば良い。現在は車社会ではあるが、公共交通のメリットをしっかりとアピールしていただければと思う。

横 手： 東温市ではバスも鉄道も走っていてとても充実している。この現状を維持していくためには、新しい価値を市民に提供していくことが重要。若い人達にお子さんと、公共交通に乗ってこんなところに行けますよというような提案をしていくことが大事。いちご日和という人気のお店にも行けることを提案するのもいいと思う。鉄道に乗って行ってみようという気持ちになってもらうことが重要。路線バスツアーもいつも同じだといけ
ないので、今年度は川内地区にある西国 33 カ所を巡るツアーを 6 月から始めた。コロナ禍なので、出来ることは限られるが、同じ場所でも目的が異なるため、目新しさがある。

地元住民がどう考えているのかを聞いて、取り組んでいくことが非常に重要。

森： 昨年まで 10 年近く上林地区の区長をやっていた。バスはいつもほとんど乗客がいらないが、無くなると困ると言う。どうにかしないといけないと思い、他市に視察に行き予約制乗合タクシーを導入したり、運行開始時には小学生にダンスを踊ってもらうなどセレモニーを行ったりした。区長主体になっていると思うので、区長を中心に協力を要請していく必要があると思う。上林地区でデマンドをやる時も、他の区長からなぜ上林だけなのかと言われた。川内にも中山間部がたくさんあるが、東温市全体の公共

交通をどうしていくかを考えるにあたり、今後はぜひ区長を巻き込んでやっていただければ良い。

菅 野： 社協では子どもの見守り活動も行っている。インターチェンジや団地ができて車が増え、交通事故を心配している。東温市と松山市の間の通勤・通学流動を見ると、自分の認識が間違っていたと感じた。
自分はできる限り早く免許返納をして公共交通を使っていきたい。

高 須 賀： 婦人会として公共交通に関する活動はあまりしていないが、SDGs に関する勉強等はしている。私個人は不便な場所に居住していて車が無いと生活できない。免許返納まで車を使っていきたいと思うが、こういう会のメンバーになったこともあり、松山市などに会合に出かける場合は、出来る限り公共交通を使いたいと思っている。

川内営業所や横河原駅までマイカーで行ってパーク＆ライドしようと思うが、駐車できる場所がない。昔は牛渕駅や横河原駅に駐車できる場所があった。乗り継ぎの便利な場所に車を置けるようにしてもらえれば、公共交通を使って移動できるのではないかな。

東： これまで公共交通に関心が無かったが、これから勉強することになる。東京で学生生活をし、自動車販売業を行っていた。昭和 47 年に東温市に戻り営業職をした。なので 60 年間ずっと車生活だった。年齢的に 80 歳が近くなると、いつまで車を運転できるかと考えることがある。同じ団地で 90 歳になる人が免許更新をしてきたと言っていた。

上 岡： 本日いただいたご意見を踏まえ、取り組んでいきたい。

曾 我 部： 公共交通はまちづくりや地域活性化を行う上で重要。こうした取り組みを地域とともに進めていく必要がある。

宗 光： 道路の目線でいうと、主要国道で最大 23%の交通量が減少した。少しずつ回復したが、今年も 17%減少した。渋滞は様々なパターンがあるが、コロナの影響で生活に関する考え方が変わり、東温市内における交通の状況も少しずつ変化が生じている可能性がある。道路管理者としてできることをしっかりやっていきたい。

谷 口： サロンや乗り方教室を変わらず積極的に行っているのだと改めて認識した。免許返納者数が増えていないのが残念である。公共交通という受け皿は維持できているので、観光での活用など頑張ってもらえればと思っている。

稲 荷： バス業界は厳しい状況が続いている中、感染対策等に取り組んでいる。地域の皆さまに主体的に取り組んでいただければと思う。

和 田： タクシー業界も厳しい状況が続いている。何とか生き残っていかないとと思っている。昼間の需要は徐々に回復してきているが、夜の飲食関係での

需要は依然として厳しい状況が続いている。この計画は 5 年間の計画になっているが、来年になったらワクチン接種が進み、観光で人が動くようになる状況も大きく変わるのではないかと思います。

岡田： コロナが流行し始めて 1 年半になる。朝夕の通勤はほぼ元に戻っている印象だが、買い物利用等はまだ戻っていない。今回の 4 連休で少しずつ回復傾向にあるように見えた。

皆さんがそれぞれの立場でできることをやっていただくことで、それが力になっていくように思う。

コロナが落ち着いた際には、東京へ乗り換えなしで行ける高速バスを是非活用いただき、車窓を楽しんでいただきたい。

宮崎： 自動車ベースでいいと思うが、オプションとして公共交通という風に考えた方がよい。自主研究で公共交通に関するアンケートを行ったところ、若いうちから公共交通を使う習慣が無いと、急に免許返納しても公共交通を使えないという結果が出ている。車だけでなく公共交通も使うライフスタイルを目指していかないといけない。地方では家族で公共交通に乗る習慣がないので、子どもの社会勉強の一環で取り組む必要がある。高須賀さんの発言にもあったように、自分の住む町の中なら運転できるが、隣町までは難しいというパターンがあるので、パーク＆ライドは重要だと感じた。

会長： 皆様それぞれの立場での貴重なご意見をいただき、大変参考になった。ありがとうございました。

4. 閉会

進行： それでは以上で本会議を閉会する。

以 上